

超精密とメカトロメーションを追求する

Seibu

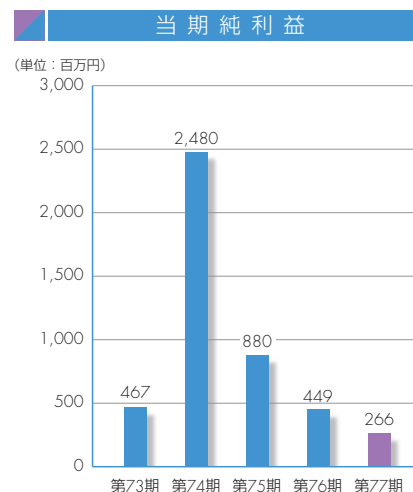
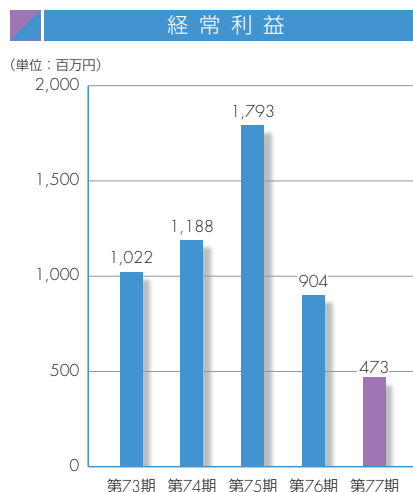
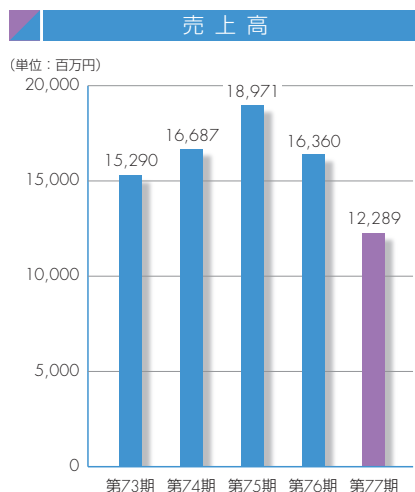
第77期 株主報告書

平成21年4月1日から平成22年3月31日まで

西部電機株式会社

業績ハイライト

科目	第73期 平成17年度	第74期 平成18年度	第75期 平成19年度	第76期 平成20年度	第77期 平成21年度(当期)
売上高(百万円)	15,290	16,687	18,971	16,360	12,289
経常利益(百万円)	1,022	1,188	1,793	904	473
当期純利益(百万円)	467	2,480	880	449	266
1株当たり当期純利益	32円34銭	177円57銭	62円58銭	31円92銭	18円96銭
総資産(百万円)	23,307	27,256	26,388	24,286	22,931
純資産(百万円)	11,748	13,963	13,983	13,652	14,708
1株当たり純資産額	840円55銭	998円73銭	990円48銭	971円27銭	1,046円65銭



(注) 第74期は、土地の売却益なども加わり、最高益を確保することができました。

株主の皆様へ



取締役社長

木村 馥

株主の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

平成22年6月29日付で、取締役社長に就任いたしました木村 馥でございます。

株主の皆様には、前 吉住社長同様、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

さて、当社第77期（平成21年4月1日～平成22年3月31日）の決算が終了いたしましたので、その概況をご報告申し上げます。

平成22年6月

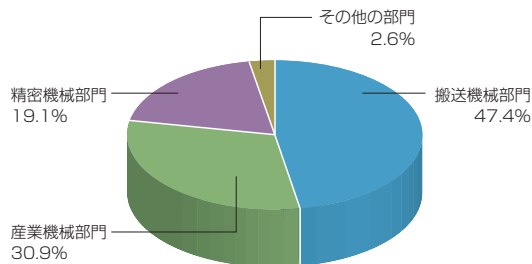
業績の概況

(1) 当連結会計年度の事業の状況

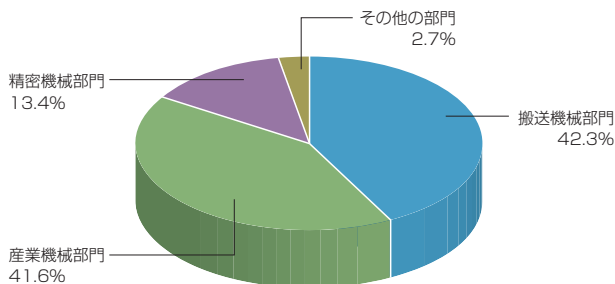
当連結会計年度におけるわが国経済は、国内外の経済対策効果によって、輸出や生産に改善の動きが見られ、景気は底入れしたものの、経済活動は低水準で推移し、実感の乏しい景気回復が続くという経過を辿りました。

このような情勢の中で、当社グループは新商品の開発、提案型営業の積極的展開、品質ならびに生産性の向上に努力してまいりました。しかしながら、当社グループの連結業績は、企業の設備投資に対する慎重な姿勢が継続するなどの影響を受け、受注高は123億3千3百万円（前期比10.5%減）、売上高は122億8千9百万円（前期比24.9%減）となりました。利益面では、コストダウンや経費削減等当社グループを挙げて注力いたしましたが、経常利益は4億7千3百万円（前期比47.6%減）、当期純利益は2億6千6百万円（前期比40.8%減）となりました。

●売上高構成比率



第76期 平成20年度



第77期 平成21年度

(2) 対処すべき課題

次期のわが国経済は、デフレの長期化等の懸念材料を内包しつつも外需を中心に緩やかな景気回復が続くものと思われま

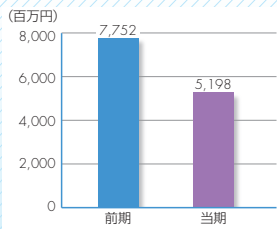
す。当社グループといたしましては、変化する経済環境を十分に認識いたし、景気に左右されないオンリーワンの新商品の開発と、これらの市場投入による受注・売上の拡大、更にはコストダウンや経費削減に一層注力し、企業体質の強化に邁進いたす所存であります。

株主の皆様におかれましては、今後ともよろしくご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

部門別売上の状況（連結）

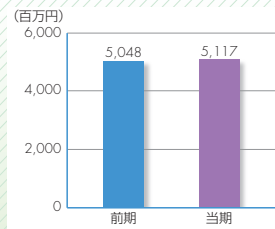
【搬送機械部門】

搬送機械部門では、既存顧客からのリピート受注、小型自動倉庫や製造業の生産・物流分野などに、ピッキングシステムや新商品を使ったソリューションを提案するとともにサービス・メンテナンスにも注力し、拡販を図ってまいりました。しかしながら、設備投資の調整圧力が強く、設備計画の延期や保留が生じるなど、厳しい状況が続きました。その結果、受注高は52億3千1百万円（前期比14.5%減）、売上高は51億9千8百万円（前期比32.9%減）となりました。



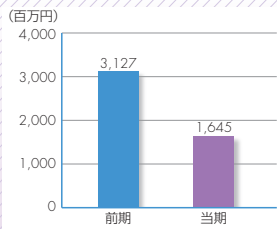
【産業機械部門】

産業機械部門では、公共投資抑制の影響を受けるなど厳しい環境の中でしたが、民間需要の掘り起こしや既存市場におけるシェアアップに注力いたしました。その結果、上下水道向けはやや減少しましたが、ゲート市場向けアクチュエータが比較的堅調に推移し、受注高は51億5千3百万円（前期比1.3%増）、売上高は51億1千7百万円（前期比1.4%増）となりました。



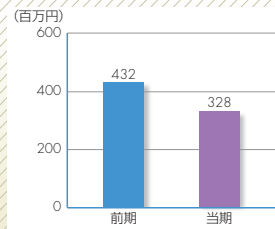
【精密機械部門】

精密機械部門では、既存顧客の更新需要や新規商社の開拓に注力するとともに、放電機械は新商品を中心に半導体やデジタル家電向け、工作機械は光学・自動車・IT・エコ部品加工市場などに拡販を図ってまいりました。しかしながら、円高に加え、世界的な需要の減退から国内企業の設備投資意欲は弱く、低調に推移しました。その結果、受注高は16億5千9百万円（前期比22.9%減）、売上高は16億4千5百万円（前期比47.4%減）と大幅に減少いたしました。



【その他の部門】

その他の部門では、駐車場装置や営繕工事の減少などにより、受注高は2億8千8百万円（前期比31.9%減）、売上高は3億2千8百万円（前期比24.1%減）となりました。



トピックス

「納骨堂自動参拝システムの納入」

搬送機械部門では、経済的理由や地理的条件から都会でのお墓の購入が難しいという要望にお応えするために、「納骨堂自動参拝システム」を開発し納入いたしました。この参拝システムは、法要ブース1セット、参拝ブース6セット、「納骨厨子」の格納数3,000基の構成でできております。受付で、個人専用ICカードを入力すると故人の「納骨厨子」が自動で参拝ブースに運ばれて、参拝できるシステムとなっております。受付から参拝ブースまでの所要時間は3分程で、参拝者には待ち時間も少なく、お客様から高い評価をいただいております。今後、都市部においての受注が大いに期待できます。



「納骨厨子格納・搬送システム」

「大型チェーン式ゲート駆動装置」

産業機械部門では、大型チェーン式ゲート駆動装置の開発・商品化を行いました。本装置は、減速機構を1つのユニットにまとめたコンパクト設計となっているため、軽量化・省スペース化が図れることから、ワイヤーロープ式駆動装置の置き換えとして需要が増加しており、昨年度は国土交通省向けに多くの台数を納入いたしました。

また、今後更なる大型機種への対応に向け、機能試験を行うための負荷試験台（テストタワー）を新たに設置いたしました。この試験台で、荷重40t、ストローク3.5mまで負荷試験を行う事ができます。今後、充実した商品ラインアップの確立により、ゲート市場での拡販が大いに期待できます。



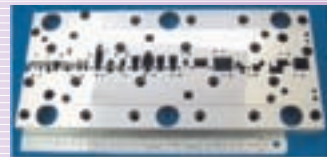
「LCM-125W（チェーン式）」



「40t用負荷試験台」

「MM750S」（高精度ワイヤ放電加工機）

精密機械部門では、「MM750S」（高精度ワイヤ放電加工機）を開発いたしました。ハイブリット車や電気自動車に使用されるコネクタのプレス金型は、高精度かつ大型化の傾向にあり、金型製作には非常に高い技術力が必要とされています。車載コネクタ用のプレス金型に使われるプレートは位置割り出しの役目も担っており、プレート全体でのピッチ精度要求が±2μm以下になります。このため、今まではプレートを2分割し、別工程でジグ研削加工を行っておりました。しかし、この「MM750S」は大ストローク高精度加工機であり、2分割相当長の1枚プレート化を可能とした上に、ジグ研削加工と同等の加工精度を確保できるため、ジグ研削加工工程を省略する事ができ、金型製作に一大革命を起こしています。また、各地でキャラバンを行い、機械性能を実感していただくために勢力的な受注活動を行っております。工作機械業界の景気回復が確かなものになって来た今、今後の拡販が大いに期待できます。



「精密プレス順送金型」

メカトロテックジャパン 2009

- 会期 平成21年10月14日(水)～17日(土)
- 会場 名古屋市国際展示場(ポートメッセ名古屋)

今回、『パワーを生み出すモノづくり』をメインテーマとして掲げ開催された本展示会は、機械産業の日本屈指の集積地・中部地域を代表するFA専門展示会であり、特別企画をはじめ、最新商品も数多く出展されました。

当社は高精密ワイヤ放電加工機MMシリーズに新たなラインアップとして追加されたMM750Sを出展いたしました。長尺化傾向にある高精度金型加工において要求精度を確実にクリアでき、品質向上と短納期に貢献します。世界最速自動ワイヤ供給装置を有し、供給率100%を実現する各機能を搭載した同機種は、業界関係者の大好評をいただきました。



2009堺水道展(第43回 水道資機材展示会)

- 会期 平成21年11月11日(水)～12日(木)
- 会場 堺市金岡公園(野球場)

『水道の安全は、社会の安心です。計画的な更新を!』をテーマに世界的に高い水準を誇る日本の上下水道関係者を集め、堺水道展が開催されました。

当社はSemflex®-VM (PROFIBUS仕様)、VP (リモコン仕様)タイプのバルブアクチュエータのデモシステムを構築し展示発表いたしました。

当社ブースには雨の中、約300人来客され、新型機の性能・導入事例・仕様について関心を示されるお客様も多く、新しいシステムの引き合いの話など大きな反響をいただきました。



連結財務諸表（要約）

■ 連結貸借対照表

単位：百万円

（金額は単位未満を切り捨てております。）

科目	当期末 平成22年3月31日	前期末 平成21年3月31日
（資産の部）		
流動資産	10,756	12,334
現金及び預金	3,689	3,192
受取手形及び売掛金	5,328	6,764
仕掛品	801	1,079
原材料及び貯蔵品	669	1,071
繰延税金資産	208	193
その他	76	53
貸倒引当金	△ 17	△ 21
固定資産	12,174	11,952
有形固定資産	8,762	9,105
建物及び構築物	3,056	3,215
土地	5,115	5,115
その他	590	774
無形固定資産	21	26
投資その他の資産	3,390	2,820
投資有価証券	2,854	1,437
長期貸付金	41	26
繰延税金資産	85	638
投資不動産	19	19
その他	443	753
貸倒引当金	△ 54	△ 56
資産合計	22,931	24,286

科目	当期末 平成22年3月31日	前期末 平成21年3月31日
（負債の部）		
流動負債	4,520	6,881
支払手形及び買掛金	2,665	4,482
短期借入金	620	620
未払費用	813	843
未払法人税等	184	199
役員賞与引当金	10	18
その他	226	717
固定負債	3,701	3,752
長期借入金	336	336
長期未払金	100	174
再評価に係る繰延税金負債	1,989	1,989
退職給付引当金	1,110	1,096
役員退職慰労引当金	163	153
その他	1	1
負債合計	8,222	10,634
（純資産の部）		
株主資本	10,699	10,538
資本金	2,658	2,658
資本剰余金	2,502	2,502
利益剰余金	5,828	5,667
自己株式	△ 290	△ 289
評価・換算差額等	4,009	3,113
その他有価証券評価差額金	1,108	211
土地再評価差額金	2,901	2,901
純資産合計	14,708	13,652
負債純資産合計	22,931	24,286

■ 連結損益計算書

単位：百万円
(金額は単位未満を切り捨てております。)

科目	当期	前期
	平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで	平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで
売上	12,289	16,360
売上原価	9,360	12,553
売上総利益	2,929	3,807
販売費及び一般管理費	2,584	2,971
営業利益	344	836
営業外収益	152	105
受取利息	3	15
受取配当金	35	35
受取口イヤリテイー	19	14
保険解約返戻金	45	13
固定資産売却益	4	4
助成金の収入	6	7
その他	27	—
営業外費用	10	13
支払コミットメントフィー	23	36
その他	13	15
経常利益	4	16
特別利益	5	3
特別利益	473	904
投資有価証券売却益	4	0
固定資産売却益	—	0
貸倒引当金戻入額	—	0
特別損失	4	0
投資有価証券評価損	15	70
たな卸資産評価損	0	36
固定資産除却損	—	16
工場移転費用	12	14
その他	—	1
税金等調整前当期純利益	2	0
法人税、住民税及び事業税	463	835
法人税等調整額	206	255
当期純利益	△ 9	129
	266	449

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円
(金額は単位未満を切り捨てております。)

科目	当期
	平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	773
投資活動によるキャッシュ・フロー	68
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 106
現金及び現金同等物の増加額	736
現金及び現金同等物の期首残高	2,892
現金及び現金同等物の期末残高	3,629

■ 連結株主資本等変動計算書

単位：百万円
(金額は単位未満を切り捨てております。)

当期	株主資本					評価・換算 差額等合計	純資産合計	
	平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式			株主資本合計
平成21年3月31日残高		2,658	2,502	5,667	△ 289	10,538	3,113	13,652
連結会計年度中の変動額								
剰余金の配当				△ 105		△ 105		△ 105
当期純利益				266		266		266
自己株式の取得					△ 0	△ 0		△ 0
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)							896	896
連結会計年度中の変動額合計		—	—	161	△ 0	160	896	1,056
平成22年3月31日残高		2,658	2,502	5,828	△ 290	10,699	4,009	14,708

単体財務諸表（要約）

■ 貸借対照表

単位：百万円
(金額は単位未満を切り捨てております。)

科目	当期末 平成22年3月31日	前期末 平成21年3月31日
(資産の部)		
流動資産	10,097	11,576
固定資産	12,230	12,009
有形固定資産	8,812	9,156
無形固定資産	19	25
投資その他の資産	3,397	2,827
資産合計	22,328	23,586
(負債の部)		
流動負債	4,348	6,552
固定負債	3,673	3,723
負債合計	8,022	10,275
(純資産の部)		
株主資本	10,298	10,199
資本剰余金	2,658	2,658
資本剰余金	2,502	2,502
利益剰余金	5,427	5,328
自己株式	△ 290	△ 289
評価・換算差額等	4,007	3,110
純資産合計	14,305	13,310
負債純資産合計	22,328	23,586

■ 損益計算書

単位：百万円
(金額は単位未満を切り捨てております。)

科目	当期 平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで	前期 平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで
売上高	11,512	15,141
売上原価	8,845	11,675
売上総利益	2,666	3,466
販売費及び一般管理費	2,420	2,796
営業利益	246	669
営業外収益	161	119
営業外費用	23	36
経常利益	384	752
特別利益	3	0
特別損失	15	74
税引前当期純利益	373	678
法人税、住民税及び事業税	179	188
法人税等調整額	△ 10	129
当期純利益	204	360

■ 株主資本等変動計算書

単位：百万円
(金額は単位未満を切り捨てております。)

当期 平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで	株主資本					評価・換算 差額等合計	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
平成21年3月31日残高	2,658	2,502	5,328	△ 289	10,199	3,110	13,310
当期変動額							
剰余金の配当			△ 105		△ 105		△ 105
当期純利益			204		204		204
自己株式の取得				△ 0	△ 0		△ 0
別途積立金への積立			—		—		—
その他利益剰余金の取崩			—		—		—
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）						896	896
当期変動額合計	—	—	99	△ 0	98	896	994
平成22年3月31日残高	2,658	2,502	5,427	△ 290	10,298	4,007	14,305

会社の概況・株式の状況 (平成22年3月31日現在)

■ 会社の概況

- 商 号 西部電機株式会社
- 英 訳 名 Seibu Electric&Machinery Co.,Ltd.
- 本店所在地 福岡県古賀市駅東三丁目3番1号
- 設 立 昭和14年2月1日
- 資 本 金 26億5,840万円
- 従業員数 405名(連結447名)
- 役 員 (平成22年6月29日現在)

取締役会長 (代表取締役)	吉 住 一 成
取締役社長 (代表取締役)	木 村 稔
常務取締役	宮 地 敬 四 郎
常務取締役	大 串 秀 文
取 締 役	藤 岡 敬 正
取 締 役	木 谷 泰 博
取 締 役	中 里 晋 也
取 締 役	税 所 幸 一
常勤監査役	平 塚 皓
監 査 役	小 西 正 純
監 査 役	鬼 頭 正 雄

(注) 監査役小西正純、鬼頭正雄の両氏は社外監査役であります。

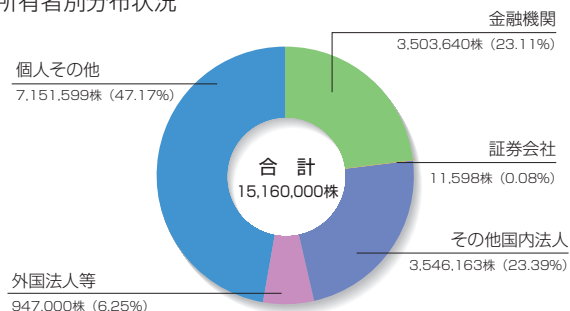
■ 株式の状況

- 発行可能株式総数 32,980,000株
- 発行済株式の総数 15,160,000株
- 株 主 数 1,630名
(前期末比33名減)
- 大 株 主

株 主 名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
株式会社安川電機	2,630	18.71
株式会社三菱東京UFJ銀行	650	4.63
株式会社福岡銀行	633	4.50
みずほ信託銀行株式会社	626	4.45
株式会社西日本シティ銀行	589	4.19
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	564	4.01
バンクオブニューヨーク・シーエムクライアント アカウツジービー・アールイー・シーアイティー・アイシー	504	3.58
西部電機従業員持株会	381	2.71
村上 博	215	1.52
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505019	175	1.24

- (注) 1. 当社は、自己株式1,106,742株を保有していますが、上記大株主からは除いております。
 2. 持株比率は自己株式(1,106,742株)を控除して計算しております。
 3. シンプレクス・アセット・マネジメント株式会社から平成22年1月8日付で提出された大量保有報告書の変更報告書により、平成21年12月31日現在同社が1,028,000株(保有割合6.78%)を保有している旨の報告を受けております。しかし、当社として当事業年度末における同社の実質所有株式数の確認ができていないため、上記大株主には含めておりません。

●所有者別分布状況



超精密とメカトロメーション®を追求する

Seibu

■株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
単元株式数	1,000株
剰余金の配当	毎年3月31日の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者に対してお支払いいたします。
中間配当	取締役会の決議によって、毎年9月30日の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者に対してお支払いいたします。
公告方法	電子公告により、当社ホームページ（ http://www.seibudenki.co.jp/ ）に掲載いたします。 なお、やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
基準日	毎年3月31日 その他必要があるときは、取締役会の決議によってあらかじめ公告いたします。
株主名簿管理人 および特別口座管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
お問合せ先 〔郵便物送付先〕 〔電話問合せ先〕	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-288-324（フリーダイヤル）

ホームページのご案内

<http://www.seibudenki.co.jp/>

または、

西部電機

検索

